2月の「語ルシストの会」は、九州医療科学大学社会福祉学部准教授の日田剛氏を講師にお迎えし、「ソーシャルワーカーの役割」についてお話しいただきました。

講演では、まずソーシャルワーカーとはどのような使命と役割を持つ専門職なのかについて説明がありました。

ソーシャルワーカーは、人間の尊厳や人権、社会正義を尊重しながら、地域社会や病院・施設など、さまざまな場面で生活上の困難に遭遇した人々を支援する専門職として位置づけられています。

また、ソーシャルワークは、社会変革や社会開発、社会の結束を促進し、人々のエンパワメント（自立支援）や解放を目指す実践的な専門職であると同時に、学問としての側面も含めて説明されました。その基盤となるのが、社会正義、人権、集団的責任、多様性の尊重といったものが原則です。

さらに、地域社会の中で困難を解決するために、どのような視点で課題を分析すべきかについて、具体的な事例を通してソーシャルワークのスキルが紹介されました。

特に、一般的な視点とソーシャルワークの視点の違いについて明確に示されました。例えば、一つの問題（出来事）の背景には、母子家庭、貧困、悩み、孤独など、複数の課題が絡み合っていることが多く、複数の課題は個人の努力だけでは解決できない社会的課題になるので、ソーシャルワーカーが適切に課題解決に取り組むことが求められています。

講話終了後の意見交換で、上記のような使命や役割があるけど現実には燃え尽き症候群で離職する方も多いことや利益至上主義の中、効率や成果を上げることが求められて業務に追われてしまい本来の支援が疎かになり、疲弊しているソーシャルワーカーも多い現実にとどのように働きかけて改善していくか話し合う。

個人的には、組織のリーダーには、使命と役割のために、ミッション（理念）とマネジメント（管理）を適切に融合させ、目的を達成していくことが求められます。しかし、福祉の世界も市場経済の波にさらされ、規制緩和によって民間企業が参入する中で、利益至上主義の運営者が存在するのも現実です。専門職を「駒」として扱い、効率や成果のみを追求し、利益を優先する経営者がい

る時代となり、時には利益を得るために不正をも厭わない事例すら見受けられます。

そのため、専門的な知識を身につけて社会に出る以上、自分のやりたいことを実現できる企業理念を持つ職場か、またコンプライアンス（法令順守）を徹底して取り組んでいるかが重要です。

また、ソーシャルワーカーが健全に働ける環境を整えるためには、ソーシャルアクションを起こし続けることが必要です。具体的には、ソーシャルワーカー同士が悩みやストレスを共有できる場を作り、無駄な効率主義に対抗する努力を進めることが求められます。

支援者自身が「一人の人間」として健全な働ける環境を確保することで、より質の高い支援が可能になります。そして、本来のソーシャルワークの目的や使命のために、効果と成果を高めるスキルを磨くことが、今後ますます重要になると考えます。